

# 小・中学校 特別の教科 道徳

※以下、「道徳科」と記載

## 1. 道徳科における評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいです。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格の特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を諸様相とする内面的資質です。このような道徳性が養われたか否かを評価することはなじまないため、道徳科の評価では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という観点別の評価は行いません。

児童生徒がいかに成長したかを、各児童生徒の学習状況や成長の様子を適切に把握し、積極的に受け止めて認め、励ます視点から、個人内評価として行います。

## 2. 評価の進め方

道徳科の評価にあたっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で行います。児童生徒が道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習によって表れる学びの姿や道徳性に係る成長の様子を把握することが大切です。また前述のような評価の視点やワークシートやノートの記述、授業での発言の観察・記録など評価のために集める資料を学校全体で共通認識を持つておくことで、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができます。また、それらを児童生徒や保護者に対して伝えることも重要です。

## 3. 評価の観点例とその見取りの視点

（例）学習活動を通して道徳的価値やそれに関わる諸様相を、より多面的・多角的な見方へと発展させているか。

<視点>

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・ 自分と違う立場や考え方や感じ方を理解しようとしている。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる状況で取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

「ルールは大事だが、〇〇がルールをやぶった気持ちも分かる」  
「グループで話し合っ、違った考え方もあるということに気付いた」  
「他人の過ちに対しては、公正に接する一方で、寛大な心で過ちの原因を聞くことも必要だ」

「特別の教科 道徳」実践事例集 104 頁（平成 30 年 2 月 大阪府教育庁）より

## 4. 児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価実践例

（実践例）複数回の授業を通じて、児童生徒が記載した内容の中から学習状況及び道徳性に係る成長の様子を見取る。

この勉強をする前はルール  
ってのんごくさいな。って思っ  
てたけど、考えてみればル  
ールかなければたいへんな  
事になっていったなと気づき  
ました。やっぱり先生の言う  
とおり勝手に作られたま  
まりより自分で作ったま  
まりの方が守れるなと思  
いました。これからま  
まりを守り、正しいま  
まを守らうと思いました。

「規則の尊重」に関する複数の道徳の授業を  
通して、自分なりに考えを深めた瞬間をとらえ  
た表現であると判断しました。

評価の記載の一例

「人間とルール」では、「作られたままりより  
自分で作ったままりの方が守れる」と、  
自分なりに考え、それをいかしていきたい  
と考えることができました。

「特別の教科 道徳」実践事例集 105 頁（平成 30 年 2 月 大阪府教育庁）より

※ 他の実践例については、「特別の教科 道徳」実践事例集 105～108 頁参照

